

つるつるねこ

さく のむらうみ



ぼくは さいきん ほっかいどうに ひっこしてきたねこ
すぐに ともだちもできて きょうは そのこと
いっしょに あそぶ やくそくも してあるんだ

おっと そろそろ いかなくちゃ



そとにでると となりに すんでいる しまぶくろうの
おじさんが はなしかけてきた
「おでかけかい？ きょうは みちが つるつるだから
きをつけるんだよ」
おじさんは いつも いろいろなことを おしえてくれる

ねこた

「わかりました きをつけます」
そういうと ぼくは じめんをみた



しまた

たしかに みちは つるつるしている
ぼくは いわれたとおりに きをつけながら あるいた



そろーり そろーり あるいていると



ツルッ



ドスン!

ころんだ



あんなに きをつけて あるいていたのに
ころんだ
ぼくは びっくりして そのばで しばらく
かたまった



そして たちあがって また あるきだした



あるいていると ゆきみちにも だんだん なれてくる
ぼくは たのしくなって うたいながら あるいた
すると



ツルッ



ドスン!

またころんだ
ぼくは なんだか はずかしくなった



でもよくみると まわりの みんなも
つるつると すべっている

「なーんだ ぼくだけじゃ ないんだ」
そうおもうと はずかしくなくなった



このあとも なんだか ころんだけど
ようやく やくそくの ばしょについた
「おーい ねこくん! こっちこっち」
ともだちの きたきつねくんに よばれた



きたきつねくんは てに キラキラ ひかるものを
もっていた

「うわぁ きれいだね！ これなあに？」

「ジュエリーアイスっていうんだ」

「ジュエリーアイス？」

「そう とかちがわの こおりが うみにながれでて
ここの かいがんに うちあげられて できたものだよ
たいようの ひかりで キラキラ かがやくんだ」

「へえー すごいね！ ほんとうに ほうせきみたい」



「ねこくん あっちに いっぱい あるから
みにいこう！」
そういと きたきつねくんは うみのそばまで
かけていった
「あっ まってー！」
ぼくも いそいで あとを おいかけた

そして ツルッと すべって
またころんだ



